


「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 26 年 7 月 14 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	佐藤 悠

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
熊本サクチュアリ
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
野生動物・比較認知科学基礎論
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 26 年 6 月 17 日 ~ 平成 26 年 6 月 20 日 (4日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学 平田 聡 教授
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
今回の実習では熊本サクチュアリでチンパンジーおよびボノボを対象に、タッチパネルやイトラッカーを用いた認知実験等の見学を行った。ボノボを対象とした比較認知の実験は今回が初めてとのことであったが、「画面を触れば餌が落ちてくる」こと、さらに次の段階である「画面の中の赤い丸を触れば餌が落ちてくる」ことをボノボはすぐに理解していたようで、非常に学習能力が高いように感じた。またボノボはチンパンジーに比べ非常に穏やかな性格をしていた。一方チンパンジーに関しては非常に高度な訓練がされており、ボノボよりもより複雑な実験を行っていた。タッチパネルについては「図形の色が変化してから触ると餌が落ちてくる」というもので、まだ訓練の途中であったために成功率は高くないものの、理解し始めている個体もいた。またイトラッカーについて、人とチンパンジーで物の見方というのが違う部分が多く、非常に興味深かった。なお、顔の認識については顔がさかさまになると人もチンパンジーも認識に時間がかかるようで、目線の動き方が似ているのが面白かった。 サル(霊長類)とヒトで認知にどのような差があるのかということに興味を持てた実習であった。

ボノボのタッチパネル実験

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



チンパンジーのアイトラッカー実験

6. その他 (特記事項など)